



日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会

訓練科 言語聴覚士 山本 弘子

平成30年9月8日(土)、9日(日)、仙台市国際センターで第24回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会が行われました。国際センターは、広瀬川近くの緑に囲まれた土地にあり、普段は静かな場所ですが、この二日間は6,000人も参加者でむせ返るような熱気に包まれました。本学会は医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、管理栄養士、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士など様々な職種が会員になっています。それぞれの職場で目の前にいる症例のより良い摂食を目指して日頃から協働し、その成果を発表し合うところに特徴があります。当センター摂食嚥下ワーキンググループ(以下摂食WG)リーダー渥美医長は、「重症児者における喉頭気管分離術後の経口摂取の問題点 VFでの検討」という演題発表を行いました。同じ喉頭気管分離術を行っていても、症例ごとにその後の経口摂取の様相は異なっており、どのような姿勢で、どんなものが食べられるか、は異なっています。代表的な症例を呈示することで、今後この術式を行われた方への援助・ケアの在り方が違うという示唆に富んだ発表で、多くの質問や意見が飛び交っていました。私は、当センター摂食WG活動の中で知見を得た内容で、「重症児者の嚥下機能低下に加齢が及ぼす影響」という発表をさせていただきました。一般成人では70歳～80歳位で起こる加齢現象が、重症児(者)では40歳～50歳位で起きています。口から食べられる利用者は残念ながら少しずつ減少していますが、出来るだけ長い期間、可能なら最後まで「美味しい」と思いながら口から食べて頂けるよう、今後も利用者を支える活動を行っていきます。



聴講した中でも特に興味深かったのはサルコペニアについての教育講演でした。サルコペニアとは進行性、全身性に認める筋肉量減少と筋力低下です。その原因は加齢・活動(廃用性筋委縮)、栄養(エネルギー摂取不足)。疾患(急性炎症等)に分類されます。疾患により「とりあえず安静・禁食・点滴のみ」という対応をすると、医原性サルコペニアによって、嚥下障害が引き起こされてしまうので注意が必要という内容でした。重症児(者)は、特に栄養面での支援が重要になってくるのではないかと考えさせ

られました。

学会で刺激を受けたこと、学んだこと、考えさせられたことを摂食WGメンバーで共有し、明日からの利用者へのサービスの提供に活かしていきたいと思いを新たにしました。



プール納め

指導科 岡地 博美

9月7日(金)、プール納めを行いました。

♪♪ランナウェイ～とても好きさ～♪♪

真っ黒に日焼けした男性とハワイアンな女性が登場し、様々な音楽とダンスがプール前の中庭で披露されました。

今回は、プール活動が安全に終わったことをみんなで喜び合うとともに、夏の終わりの季節感を味わおうと企画されました。参加者は、テラス越しの方も含め、利用者やご家族、職員を合わせ60名を超える参加がありました。ハンドベルでの『少年時代』や『夏の思い出』の演奏で、夏の終わりから初秋への季節の移り変わりを感じ、『村まつり』『しょじょ寺の狸ばやし』の演奏では、笛や太鼓の音を楽しんでもらいました。真っ黒な男性の顔を見て最初はぎょっとした表情の利用者も、近づいてきた男性を見ると職員であると気がつき、パッと笑顔になりました。

最後に院長から、「皆さんプールは楽しめましたか？来年も楽しみましょう！」と締めのご挨拶をいただき、プール納めは終了しました。終わった後も、太鼓をたたいたり、楽器を鳴らしたりする利用者の姿が見られ、去りゆく夏を惜しんでいるようでした。お忙しい中、来て頂いた皆さん！ありがとうございました。




バスハイク

5-B病棟 我妻 文子

5-B病棟では、9月7日(金)に、利用者3名と職員3名の計6名で東村山ぶどう園へ半日バスハイクに出かけてきました。強い日差しも和らぎ、暑さも一段落して秋の行楽を思う存分楽しみました。バスの中では、外の景色を眺めながら歌を歌ったり、興奮して大きな声を出して喜びを表現する利用者がいたり、皆わくわくして現地に向かいました。



ぶどう園に到着すると、さっそくぶどうの棚の下を散策してぶどうの甘い香りを楽しみました。待ちに待った試食タイムでは、色々な種類のぶどうを食べることができました。特に、シャインマスカットとピオーネは絶品でした。利用者は、ぶどうの皮を剥いている間も待ちきれない様子で、ぶどうが口の中に入ると満面の笑みをこぼしていました。ぶどうの甘くて芳醇な香りと味を満喫し、とても楽しいバスハイクになりました。

秋のコンサート

5-A病棟 大塚 好雄

9月12日(水)、5-A病棟では秋のコンサートを開催し、25名の参加がありました。この日は演奏ボランティアとしてセンターではおなじみの音楽家ユニット、「音種(おとたね)」の皆様をお招きし、数々の名曲を演奏、歌唱して頂きました。「音種」の皆様を5-A病棟にお招きするのは今回が初めてでしたが、利用者にとぴったりとマッチする選曲にアドリブも交え演奏してくださいました。

季節にちなんだ名曲『赤とんぼ』や『ふるさと』が歌われると、利用者は目を閉じて散歩で見かけたとんぼの姿を思い出し、郷愁を感じてくださったのではないのでしょうか。その後も、中島みゆきの『時代』や有名なCMのピアノ曲『あしたのワルツ』を演奏されました。歌の合間には楽しいトークも繰り広げられ、場内が一体となって盛り上がりました。締めくくりは『上を向いて歩こう』で、利用者も一緒に鈴やマラカスを鳴らしながら声を出し場内は熱気に包まれました。利用者から御礼として普段の活動で歌っている歌を皆で歌うと、即興の伴奏で答えてくださり利用者も感激していました。

初秋のさわやかな風に乗れ、一人ひとりの心の中に感動の“種”を蒔き落としていただいたコンサートでした。ご参加頂きました皆様、ありがとうございました。



秋のお楽しみ会

1-A 井上 圭子

1-A病棟では、9月12日(水)にからふるポケットの『じっきいさん』を迎え、秋のお楽しみ会を開催しました。当日は、酷暑だった今年の夏もようやく落ち着き、秋の風が吹いて気持ちの良い日でした。

みんなで秋の歌を歌って「じっきいさん」と呼ぶと、じっきいさんが軽快に登場しました。じっきいさんの巧みな話術で、会場は徐々に盛り上がっていきました。皿回しでは、利用者も棒を持ち、真剣な表情で参加し、見事に皿が回ると拍手喝采をあびて笑顔があふれていました。クライマックスでは、風船アートで大きな花を作り、びっくりするような不安定なところでのジャグリングパフォーマンスに、客席からは「オー」と歓声があがりました。本当に楽しい時間を過ごすことができました。

最後にじっきいさんと記念撮影した利用者の顔はみんな素敵な笑顔でした。





第10回 センター祭 <舞台発表プログラム>



<10月19日(金)>

晴天時:グランド舞台
雨天時:通所棟2階 理学療法室

- 10:30 開会式(院長挨拶)
- 10:40 「くぬぎ割り人形と秘密の少女たち」
:くぬぎ分教室
- 11:05 「通所Memory」:通所
- 11:30 ~ お昼休み ~
- 13:40 「東京五輪音頭2020
みんなで踊ろう!!」:1-A
- 14:00 「カモンベイビー 2-A!!」:2-A
- 14:15 「ねこのお医者さん」:5-Bマラカス楽団
- 14:30 平成最後の「人生の節目を祝う会」
- 15:00 10月20日のアナウンス

<10月20日(土)>

晴天時:グランド舞台
雨天時:通所棟2階 理学療法室

- 10:30 ボランティア表彰式
50周年記念式典
療育センターの歌のお披露目
けやきの森学園太鼓演奏
- 11:30 ~ お昼休み ~
- 13:55 全体制作発表
- 14:10 JULIE'S CLUB
- 14:55 閉会式(事務長挨拶)

～ 第9回センター祭の様子 ～



みんなでボードゲーム!



お馴染みのジャズ演奏♪



ポツチャの体験もしました。



JULIE'S CLUBのキラのある躍りに感動!

ゲーム、体験コーナー、展示、出店などもあります。

～お待ちしております!～

〒183-8553
東京都府中市武蔵台2-9-2
東京都立府中療育センター
電話 042(323)5115
Fax 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>